群馬県の赤い羽根共同募金を良くする5つのアクション

「群馬県共同募金運動改革推進検討委員会報告書」に基づく行動計画

令和2年3月　社会福祉法人 群馬県共同募金会

改革報告書リマインド

共同募金が担うべき役割の変化

「共同」で寄付を呼びかけて配分するしくみから、「協働」して解決するための募金へ。
地域共生社会の実現に向けて多様な主体が協働するために、その一翼を担います。

新たな運動展開のための「３つの方策」

方策① 地域福祉計画等との連携	共同募金運動が有する機能（公私協働促進、地域福祉への関心喚起など）を発揮し、住民参加で描く地域福祉のグランドデザイン（＝地域福祉計画）の実現に貢献します
方策② 協働を促進する配分への転換	地域福祉の財源を確実に確保するしくみを構築し、地域共生社会を目指す配分内容に転換するよう、「協働」という観点から配分を見直します
方策③ 共同募金業務に住民が参加するしくみづくり	共同募金運動のさまざまな場面で、多様な人々が運動に参画するしくみをつくることで、地域福祉への関心を高め、主体性を形成するきっかけとなるよう工夫します

「協働」を促進する配分への転換

地域共生社会の実現のために、民間財源である共同募金にできることは、
「見えにくいものを“見える化”する／ないものを創造する／隙間を埋める」こと。
民間活動の重要性を広くアピールし、公私の適切な連携・協働を促す役割を担います。

群馬県の赤い羽根共同募金を良くする5つのアクション

共同募金運動を通じて、県民の福祉への参加と協働を促すために、
あらゆる場面で「コミュニケーション」のあり方を改善します。

（このアクションプランでは、配分を「助成」と表現しています。）

県民のみなさんと一緒に福祉課題を分かち合います	寄付を集める・使う・成果を実感する、そのプロセスを通じて、解決すべき福祉課題を県民のみなさんと共有するための具体的な機会をつくっていきます。
公的施策では対応できない分野へ率先して助成します	多分野連携・協働を促す企画型助成を実施し、率先して支援の分野を開拓します。また、課題解決に取り組む団体を育てて、数多くのアクションを生み出す支援をします。
課題解決を実感するために助成事業の評価を行います	どんな小さな成果でも、県民のみなさんと一緒に喜び、課題解決の次の一歩を踏み出すためのチカラとなるよう、助成事業の評価を行い、成果をみなさんと共有します。
参加と協働を促すための福祉教育を実践します	どんな小さな困りごとでも、誰かが気づいてつないでいく、その一連の取り組みに誰もが参加できるきっかけをつくるために、募金運動のあらゆる場面で福祉教育を実践します。
地域全体で考え実行するONE TEAM を目指します	県共同募金会と市町村支会、そして県民のみなさんとが、ビジョン・ミッションを共有して同じ将来像を描き、互いを尊重しながら連携を密にして、改革に取り組んでいきます。

県民のみなさんと一緒に
福祉課題を**分かち合い**ます

寄付を集める・使う・成果を実感する、そのプロセスを通じて、
解決すべき福祉課題を県民のみなさんと共有するための
具体的な機会をつくっていきます。

寄付者とのコミュニケーションの充実

◆助成事業の評価を生かして募金の使途を伝えながら、福祉課題への理解を促します。 <改革方策②・③>

・常時>> 助成事業を“福祉課題“主軸に表現 → ウェブページでの掲載、アニュアルレポートの作成など
・募金運動>> 寄付者属性ごと（募金方法別）の広報コミュニケーションの見直し

企業、助成先団体等、多様なステークホルダーとの協働による寄付推進

◆寄付つき商品企画「募金百貨店プロジェクト」など企業等の社会貢献活動と連携して、福祉活動を応援し、解決すべき福祉課題を県民のみなさんに広く知らせていきます。 <改革方策③>

◆「つかいみちを選べる赤い羽根募金」や分野指定寄付、遺贈等を含む個人寄付などを通じて、寄付や福祉に対する県民のみなさんの関心を高め、寄付者と助成先を繋ぎ、多様な人々の参加を促します。 <改革方策②・③>

募金運動におけるボランティア参加促進

◆街頭募金など募金活動の場だけでなく、募金の準備や助成事業の視察・応援など、募金運動のさまざまな場面でボランティア参加できるきっかけを、市町村支会や助成先団体と作っていきます。<改革方策③>

◆市民活動団体の運営や活動を専門的視点で応援する“企業等の社会貢献ボランティア活動”との連携を試みながら、福祉分野以外の方々に、福祉課題への理解を促す場面を作っていきます。 <改革方策②・③>

公的施策では対応できない
分野へ**率先して助成**します

多分野連携・協働を促す企画型助成を実施し、率先して支援の分野を開拓します。また、課題解決に取り組む団体を育てて、数多くのアクションを生み出す支援をします。

広域助成プログラムの改善

◆解決すべき課題を明確化し、3カ年プランを立てて申請する「企画型助成」を実施し、民間活動ならではの積極的な事業の企画を促します。<改革方策②>

・新しい活動を「つくりだす」助成>> 率先して支援の分野を開拓するために、しくみや活動をつくる
・今ある活動を「そだてる」助成>> 現在あるさまざまな活動を“課題解決型”に見直して育てる

◆申請事業のロジックモデル「目標設定シート」を作成し、成果を意識した事業企画を促します。<改革方策②>

（ロジックモデル… ある施策がその目的を達成するに至るまでの論理的な因果関係を明示したもの）

◆組織基盤強化支援のための助成も行い、課題解決に率先して取り組む団体を育てます。<改革方策②>

地域助成プログラムの改善

（マルチステークホルダープロセス…多様な利害関係者が参加した社会的合意形成の枠組み）

◆地域課題を中心に据えて多様な住民や団体・機関が解決に関わる「マルチステークホルダープロセス」を大切にし、「協働」を意識した助成プログラムを地域の実情に合わせて策定します。<改革方策①・②・③>

・住民の福祉計画として策定される「地域福祉計画」「地域福祉活動計画」等と有機的に連携した助成を行う
・社会福祉法人への助成については、地域課題解決のパートナーとしての関係性に配慮しながら見直しを図る
・ハード整備のみを目的とした事業は徐々に縮小し、地域課題に合わせて柔軟に助成プログラムを組み立てられるよう、県共募が支援する

◆地域助成プログラムの改善に合わせて、地域歳末たすけあい募金の活用も検討できるよう工夫します。
<改革方策②>

課題解決を実感するために
助成**事業の評価**を行います

どんな小さな成果でも、県民のみなさんと一緒に喜び、
課題解決の次の一歩を踏み出すためのチカラとなるよう、
助成事業の評価を行い、成果をみなさんと共有します。

広域助成の事業評価の実施

◆目標設定シートをもとに、審査時に申請者と話し合って「評価軸」（評価に活用する目標）を設定します。
さらに、「できたこと」だけでなく「できなかったこと」も振り返り、次の目標を立てる一助となるよう支援します。

・「何をするか」だけでなく「何が変わるか」という“アウトカム”を、どんな小さな変化でもよいので、具体的に表現する　<改革方策②・③>
・達成することを目的のみとせず、目指すプロセスも大切にしながら支援する

◆助成事業の内容やプロセス・成果等を表現するためのフォーマットを用意し、ウェブページ等で公開するなど、
県民のみなさんと成果を分かち合えるよう、助成事業の「見える化」を工夫して行います。　<改革方策③>

2 適切な介護技術の普及
（群馬県ホームヘルパー協議会）

誰もが適切にできる介護技術を、地域に伝える活動を拡げていきたい。

【現状】
平成最後の年、本県の高齢化率は過去最高の 29.4%を記録しました。今後も増え続け、令和 27 年には 39.4%、10 人に 4 人が高齢者となります。
すでに老々介護の世帯も増え、我流の介護を続けて体調を崩す人も後を絶ちません。
しかし、日々の在宅介護を専門職のみに頼ることも難しく、人生の終末期を在宅で支え続けるためには、在宅介護者が適切な介護技術を習得し、持続可能な在宅介護を実践していく必要があります。

【取組内容】
・地域の介護者等に対する介護技術の普及
・「介護技術トレーナー」資質向上研修の実施
・介護人材の確保・定着に向けた啓発活動

【めざす成果】
「介護技術トレーナー」による理論に基づいた介護技術の普及により、在宅介護者の負担軽減を図り、要介護者ご本人の在宅生活がより快適で豊かなものとなるようサポートしていきます。

例えば「つかいみちを選べる赤い羽根募金」のチラシのように
【現状・課題】【取組内容】【成果】などの項目を決めて、
規定の文字数で表現するよう定型化し、
ウェブページやレポート等で活用できるようにする

地域助成への応用

◆広域助成の評価形式を参考に、申請書や完了報告書の形式を工夫し、赤い羽根データベース「はねっと」の
地域助成の入力内容に反映させることで、地域助成の成果を県民のみなさんにアピールしていきます。

・地域助成では特に、「事業の変化・成長」だけでなく、対象者の変化・改善を地道に支援する「事業の継続」も評価する　<改革方策②・③>

参加と協働を促すための
福祉教育を実践します

どんな小さな困りごとでも、誰かが気づいてつないでいく、
その一連の取り組みに誰もが参加できるきっかけをつくるために、
募金運動のあらゆる場面で福祉教育を実践します。

子ども向けの地域福祉教育の推進

◆社会福祉協議会が取り組む福祉教育やボランティア講座等と連携して、「赤い羽根教室」に取り組みます。

・市町村支会、県市町村社協、中央共募と協働で作成したカードワークツールを活用して、主に小中学生を対象に、地域で暮らす人の“困りごと”と“解決策”と“財源”についてグループディスカッションするプログラムを展開する　<改革方策③>

めくってつなぐ
赤い羽根たすけあいカードワーク

おとな向けの寄付教育の実施

◆生涯学習や社員教育などの場面で、“社会貢献の一つとしての寄付”の必要性について伝えていきます。

・市民活動を推進するために、さまざまな人に参加を促すきっかけの一つとして、寄付の大切さを伝えていく　<改革方策③>

地域全体で考え実行する
ONE TEAM を目指します

県共同募金会と市町村支会、そして県民のみなさんとが、
ビジョン・ミッションを共有して同じ将来像を描き、
互いを尊重しながら連携を密にして、改革に取り組んでいきます。

ビジョン・ミッションの言語化と共有

◆共同募金会が募金運動を通じて県民のみなさんと どのような地域を目指していきたいか、そのビジョンとミッションを言語化し、組織内外で共有します。

◆共同募金会が取り組むあらゆる事業は、ビジョンとミッションをベースに企画し、実行します。

ビジョン
目指すべき地域のすがた
困りごとを放っておかない
だれも孤立しない
つながりのある地域

じぶんの町を良くするしくみ。
赤い羽根共同募金

ミッション
果たすべき使命
ひとりでも多くの人が
困りごとに関心をもち
地域でアクションをおこす、
そのことを応援する

（ここに示すビジョンとミッションは“仮”のものです。地域のニーズや全国の動向をみながら今後検討します。）

ミッション実行のための組織内コミュニケーションの見直し

◆共同募金会全体を、福祉課題にいち早く気づいて解決するための“住民参加の運動体”とするために、まずは組織内の連携を密にします。

・例えば、毎年開催している連絡会議をミッション実行のための「企画会議」と位置づける

のアクション 取り組み年次スケジュール

2019（令和元）年	2020（令和2）年	2021（令和3）年	2022（令和4）年

広域助成プログラム改善

- 評価・成果をウェブ掲載（ウェブページ改修）、年間5～10事業を記事化、アニュアルレポート等作成
- 中間支援等と連携して助成先団体支援
- 役割分担を確認しながら検討

アクションプラン策定

- 各市町村支会地域助成内容見直し検討：地域会議で一緒に検討、改正手順等は個別相談、改正は必須ではない
- 「赤い羽根教室」の積極展開：福祉教育に取り組む社協と順次連携、支会の学校募金の取組とも連携
- 会議ルーティン等の見直し：情報共有しながら検討を進める → 募金運動ボランティア参加促進：ボランティア募集
- 分野指定、遺贈などの寄付推進：“共同募金”として進める／まずはウェブページに掲載 → 企業や助成先等との協働による寄付・助成促進：“共同募金以外”含め／多様な寄付と助成の実現

多様な人々の参加を促すしくみを一つでも多く実現

参加と協働を促すための「コミュニケーション」改善

付録：アクションプラン策定の過程に関する参考資料①

中央共同募金会「運動性の再生に向けた共同募金活性化モデル事業」における群馬県共同募金会の取組内容 （平成30年度・令和元年度）

コミュニケーション改善企画 ～困りごとを放っておかない関係づくりに貢献する共同募金であるために

（最終目標）より多くの人が関心とたすけあいの行動を！

困りごと
困っている人

支援

たすけあい

各所属を通じて、個々人がたすけあいの必要性を自覚

活動団体

組・班など
自治会
自治会連合会

学校など

企業など

助成金を活用して課題を解決

①事業評価
（自己評価）

子ども世代が直接所属する
組織へのアプローチ

大人世代が直接所属する
組織へのアプローチ

（自己）評価基準の開発
評価を広報に活用する工夫

伝達コンテンツ開発
地域福祉計画等との連携

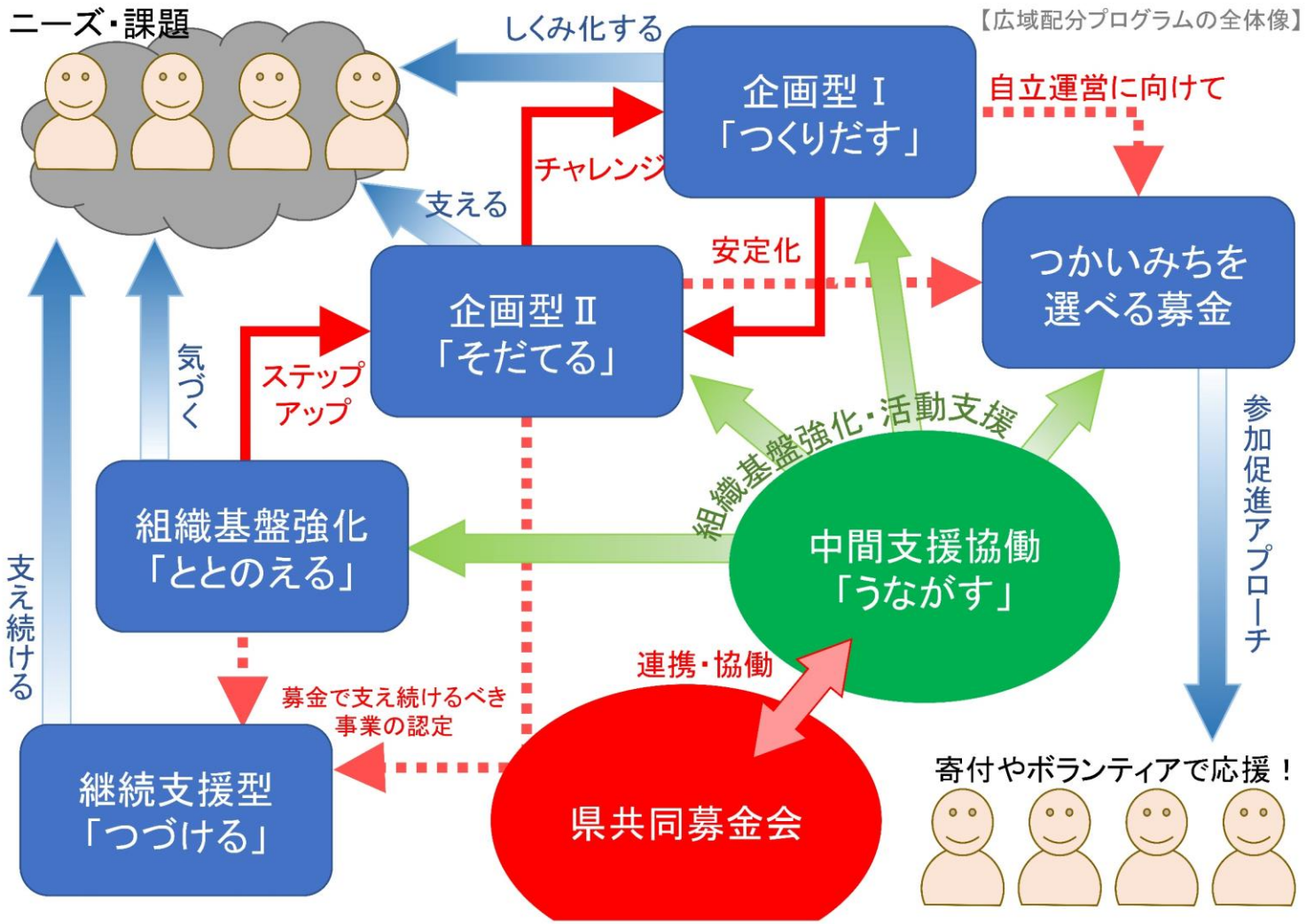
「赤い羽根教室」のリニューアル
共同募金のしくみで課題解決する大切さを理解

②助成の効果（事業評価）を伝え、課題解決への協力を求める。

共　同　募　金

付録：アクションプラン策定の過程に関する参考資料②

群馬県共同募金会 広域配分（助成）の全体像 （令和元年度）

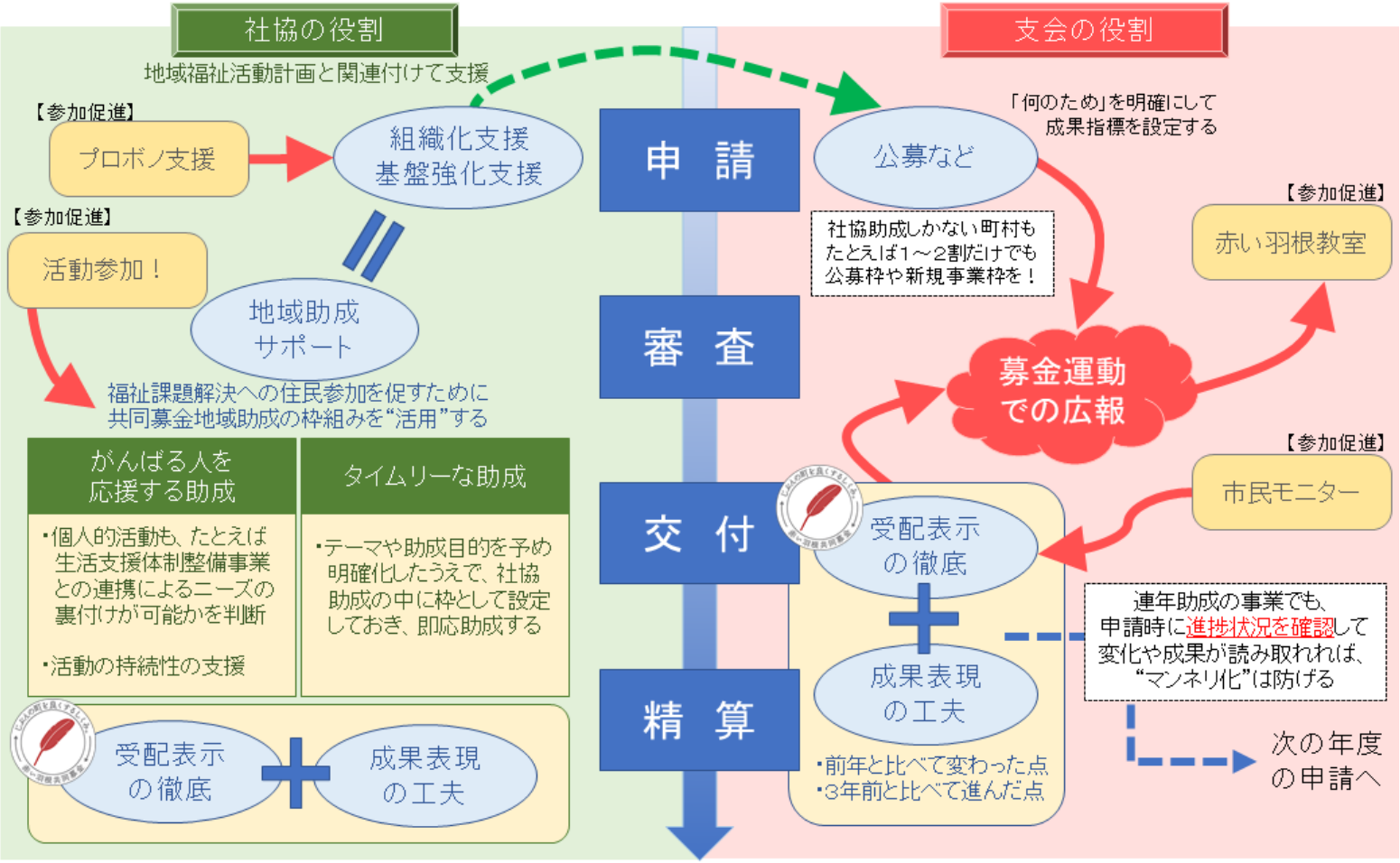


参加と協働を促すための「コミュニケーション」改善

付録：アクションプラン策定の過程に関する参考資料③

地域配分（助成）における、社会福祉協議会と共同募金会支会の役割分担の考え方（例示）

地域助成における支会と社協の役割（能動的な地域参加を促すために）



地域福祉に関心を寄せ、能動的に参加する人が増える

参加と協働を促すための「コミュニケーション」改善